

自然と向き合い、暮らしに寄り添う。



和同産業株式会社
(花巻市)
代表取締役社長

照井 政志

信頼の自社ブランドとOEM生産

当社は1941年、盛岡市に東北資源株式会社として創業し、46年花巻市に移転、同時に社名も和同産業株式会社と改称し、66年には現在地に本社と工場を整え、その後北海道岩見沢市、長野県長野市、岡山県津山市に営業所を開設しております。

創業者は三國丑蔵、二代目社長は創業者の長男三國慶耿、2012年に私が代表を引継ぎ、現在従業員は235名を数え、岩手では数少ない農機メーカーです。主力商品の除雪機の自社ブランド商品は設計開発から製造・販売と展開し、国内は無論、毎年輸出台数が伸び海外でも多くの皆様にご愛用いただいております。

一方、大手メーカー様（ホンダ・クボタ・ヤンマー）が販売する除雪機のほとんどの機種は和同の製造ラインで生産され、品質保証を経て、全国のお客様にお使いいただいております。

ります。

一台一台、思いを込めて丁寧に作り上げている除雪機です。便利で除雪が楽で暮らしやすくなったと喜んでいただけることが、何ものにもかえがたい喜びです。

創業者の訓え

本社事務所の玄関の脇に、表装した書が飾ってあります。創業者は書道が趣味で、たまたま私がいただいたものです。

自ら活動して 他を動かし 常に己の進路を求めてやまず

障害に遭ってもその勢力を百倍にし 自ら清くして他の汚濁を洗い

汚濁を併せ容るるの推量をもち 大海を満たし雨となり雲と変じ氷雪と化して 尚本性を失わないもの それは水である

これは、豊臣秀吉の知恵袋黒田官兵衛（黒田如水）の教え「水五訓」と思います。

書写文と原文の違いはありますが、時々読み返しては、次々と迫り来る経営課題を見事に乗り越えるか、あえなく時代の変化に飲み込まれまいか、この会社の創業者から経営を託された者への警句と受け止め、自分の行動などを振り返っては、日々精進し経営に邁進しています。

コロナ禍での社内一丸となった挑戦

「未来はこれまでの延長線上にない」と、よく言われます。

当社も多くのサプライヤー様の協力・支援を得ながら製品が生産出来ておりました。新型コロナウイルスのパンデミックが及ぼす影響は、過去からの延長線上には収まらない振幅で変化が波状的に地方の製造業に容赦なく押し寄せています。

「モノ無い！モノ届かない！」。調達の難しさから始まり、価格の不安定さ、人手の確保や賃金水準の問題等々、モノづくりの課題は次から次へと出現しています。通常の生産体制を確保する上で必要な要素が確定出来ない話は、どこか別の世界で起きている出来事ではありませんでした。加えて、当社の主力商品である除雪機は雪の多寡で市場変動する言わば「水商売」的要素もあることから、一層製販計画を難しく不安定さが露呈してしました。

そんななか社員から、思い通りにいかない状況をコロナのせいだから仕方がないと言うのではなく、「和同はモノづくりの会社」、困難な状況を悲観することなく、「ピンチはチャンス」、目をそらさずに前向きな対応策を全社員が知恵を出し合おう、との行動提案があり、私自身を含め会社が頑張れる大きな原動力になりました。依然難しい状況はつづいておりますが、生産は繋がっております。

技術開発による新商品で社会に貢献

当社は、「わが社の商品が社会に貢献することを使命とし、縁ある人々の幸せを実現する」であります。

2020年2月に自社開発し発売したロボット草刈機（通称ロボモア）は、24時間人手を介さずに自動で草刈り作業を行います。草刈り作業は過酷で劣悪な条件・環境の圃場が多いことから農家泣かせの作業です。ロボモアは先進機器やデジタル技術を活用した草刈機

で、重労働から農家を解放し、その手間をほかの農作業などに回すことができ、身体への負担軽減により、仕事全体の効率化が図れ、「持続する農業」「環境保全型農業」「スマート農業の進展」に大きく貢献できる商品だと実感しています。

この草刈機を普及するため、現在全国各地にロボモア代行店100店舗のネットワークを構築したく担当社員が目標を定め推進した結果、年内には達成の見通しであります。いくら優れた商品であっても、新たな競争や脅威の出現によって、その輝きを失うことに遭遇するとも限りませんので、市場浸透率を高め、お客様の声をハード・ソフト両面の進化に活かし、一段と成熟した機能を完備した草刈機に仕上げ、多様なお客様の要求に応えて行きロボモアを、次期主力商品の柱とする



世界初のロボット草刈り機「ロボモア」

ために、ここが勝負どころと、時間との戦いに挑んでおります。

次世代に繋げて

学校の校庭で、石を投げれば同級生にあたる」と言われた団塊の世代、1947年に農家の長男として生まれ、親の教えは毎日田んぼで働く自分達の姿を見せることだったように思います。このまま両親が望む農家の跡取りになるのかと一方的に自分で決めつけ、ろくに勉強もしないで遊び呆け、濁った川の中で「溺れた魚」状態でいた私を掬い上げてくれた二人の救出者（恩人）がおります。一人は高橋清孝さん、もう一人は瀬川理右工門さん、お二人とも高い人間力を備え、岩手県議会・農協会の重鎮でおられた方です。故人となられましたが、本当に公私問わず烈しく厳しく鍛えてくれました。やがてそれが私の骨となり肉となり基いとなりました。お二人からの教えは今も忘れてはいません。

これからも全社員が生き生きと働く職場環境づくりと次世代リーダーを育て、社是の一節「縁ある人々の幸せを実現する」に努めます。そして長い和同の歴史を支えた諸先輩方ははじめすべての皆さんに感謝しています。

私もすでにリレー競技で言うテイクオーバーゾーンに入っていますから、ゾーンオーバーの反則を起こさないで上手にバトンタッチを済ませて、と思うこの頃です。

あらゆる環境の中に遭っても、水のごとく柔軟に変化し和同産業は成長します。